

村に関するもの

勢至堂の由来

《勢至堂》

中通りから、会津に入るには、幾多の峠がある。勢至堂峠もその一つで、非常に険しく通行人は難儀した。

天文六年に、会津の殿様の芦名盛氏が、家来の赤目越中ならびに伴四郎兵衛に命じて、麓に関所を設けさせた。のちに耶麻郡から村人が引越して、一つの村落ができた。

さらに柳津にあった弘法大師御作の、勢至菩薩の尊像をこの地に移し祀った。のち正徳五年に、今のようにな立派な御堂を建てた。勢至菩薩の御堂があるので、勢至堂という村名になった。

明治二十九年、大雨による山津波が起こり、御堂が流されたが、扉だけは昔のままの物である。

なお赤目越中の差料の赤鞘の刀、千寿院村正の銘刀は庄屋柏木家に伝わっていたが、柏木家没落とともに



勢至菩薩像